

小 学 校

令和4年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	2
III	研究の手だて 〈一人1台の学習者用端末を活用した意見シート〉	3
IV	検証授業及び考察	6
	〈検証授業1：低学年〉	6
	〈検証授業2：中学年〉	7
	〈検証授業3：高学年〉	8
V	調査研究の結果と分析	9
VI	研究のまとめ	14

伝え、共通理解したことを基に、 学級会において合意形成を図ろうとする児童の育成 ～児童の考えを可視化することを通して～

I 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領解説特別活動編（以下、「解説」と表記。）には、「集団や自己の生活上の課題を見だし、解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、話し合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすること」、「様々な関わりを通して感性を豊かにし、よりよい合意形成や意思決定ができるような資質・能力を育成すること」が特別活動における対話的な学びとして重要であることが示されている。

しかし、「令和3年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』」（東京都教育委員会）における「学習の進め方（教科共通）」に関する調査結果では、「粘り強く進める」、「工夫しながら進める」、「対話しながら進める」、「理解しながら進める」ことについて、それぞれ4項目の質問で構成された中で、「対話しながら進める」に関して、肯定的な回答をした児童は、62.8%にとどまっている。特に、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。」と「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている。」については、肯定的な回答をした児童は60%未満であった。また、「学習の進め方（教科共通）」と「各教科の授業の内容に対する理解の程度」との関係の分析から、「学習の進め方（教科共通）」の調査項目に肯定的な回答をした児童のうち「各教科の授業の内容に対する理解の程度」の調査項目に肯定的な回答をした児童の割合は、「学習の進め方（教科共通）」の調査項目に否定的な回答をした児童に占める「各教科の授業の内容に対する理解の程度」の調査項目に肯定的な回答をした児童の割合より高くなっている。また、令和4年度の調査でも同様の調査結果を得られたことから、解説において示されている、各教科等の学習と特別活動は、往還的な関係にあることを重視する必要があると考えた。そこで、特別活動の学級会で、自分の考えを伝え、他者の考えを知り、それらを多面的・多角的に考えたり、意見のよさを生かしてまとめたりして合意形成を図り、決めたことを実践する学習過程を通して、対話しながら学習を進めることについての資質・能力の向上を図ることを目指すことにした。

全ての児童が自分の考えをもって学級会に参加できるようにするためには、「協力して達成したり、解決したりする、学級として取り組むべき共同の問題を決めて、問題意識を共有する」、「話し合うことについて考えたり、情報を収集したりして、自分の考えをまとめるなど問題意識を高める」等、学級会の事前の活動を充実させる必要がある。そこで、本研究では「教育の情報化に関する手引（追補版）」（文部科学省 令和2年6月）を踏まえ、一人一人がタブレット型の学習者用端末コンピュータに意見を書き込み、学級全員の意見を可視化する活動を取り入れることとした。一人1台の学習者用端末（以下、「学習者用端末」と表記。）の特性・強みを生かして、これまで発言することに課題があった児童も、自分の考えを可視化して積極的に友達に伝えることができ、学級全体に多様な意見を共有することができる。このことにより、学習者用端末を通して、自分と友達の意見を比べ、まとめることで、合意形成を図るまでの過程をより充実させることができると考えた。また、学習者用端末に書き込んだり、友達の意見を見たりする際に、話し合いの目的について共通理解を図ることで、問題意識を高めることができると考えた。

これらのことから、研究主題を「伝え、共通理解したことを基に、学級会において合意形成を図ろうとする児童の育成～児童の考えを可視化することを通して～」と設定し、学級会での話し合いの経験を生かして、児童が対話しながら学習を進めることよさを実感できるようにする。

II 研究構想図

【今日的な教育課題】

「東京都教育施策大綱」（東京都令和3年3月）では、「未来の東京」に生きる子供の姿として、「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる」等が示されている。また、そのために求められる資質として、読解力や表現力と並んで「対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し、新しい答えを生み出す力」が示された。

【児童の実態】

「令和3年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』」（東京都教育委員会）では、「学習の進め方（教科共通）」で「対話しながら学習を進める」ことに関する4項目の質問に肯定的な回答をした児童は、「粘り強く進める」、「工夫しながら進める」、「理解しながら進める」と比較し最も低い数値であった。特に「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。」は53.3%、「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている。」は55.2%であった。

【育てたい児童像】

- 自分の考えを、学級の友達に伝えることができる児童
- 共通理解した話合いの目的を基に、合意形成を図ろうとすることができる児童

【研究主題】

伝え、共通理解したことを基に、学級会において合意形成を図ろうとする児童の育成
～児童の考えを可視化することを通して～

【研究仮説】

学級会において、学習者用端末の共同編集シートを活用し、児童の考えを可視化して伝えることを通して、児童は自分の考えを伝えることよさを感じたり、話合いの目的を共通理解したりして、合意形成を図ろうとすることができるであろう。

【研究の内容と方法】

(1) 基礎研究

- ア 東京都の教育課題と特別活動との関連を整理する。
- イ 学級活動(1)学級会の授業研究を通して、研究の方向性について検討する。

(2) 調査研究

主題に関わる児童の意識や実態を調査し、仮説の構築（9月）や成果の分析（11月）に生かす。

(3) 検証授業

ア 時期

令和4年9月6日～11月1日

イ 実施学年

第1学年、第4学年、第6学年（低・中・高学年において効果を検証）

ウ 分析の方法

児童の発言、行動観察、意見シート[※]から「児童は伝え、共通理解したことを基に、合意形成を図ることができたか」を分析する。

※ 意見シートは、学習者用端末に各自の考えや振り返りを入力し、共有することができるものである。

Ⅲ 研究の手だて

1 一人1台の学習者用端末を活用した意見シート

(1) 目的とその背景

今まで、学級会では発言して意見を伝え合ってきたが、9月の調査研究の結果、「学級会で自分の考えを伝えやすい方法」として、「学級全体へ発言すること」を選んだ児童は38.3%であり、「学習者用端末」を選んだ児童は53.7%であった。そのため、事前の活動で学習者用端末の共同編集シート（以下、「意見シート」と表記。）に各自の考えを入力することで、より多くの児童が自分の考えを伝えられるようにした。事前に他者の考えが分かることで、児童が安心感を得られるとともに、自己の考えを広げられるようにする。

(2) 意見シートの作成

ア 作成方法

表計算ソフトやプレゼンテーションソフト、アンケート集計機能、協働学習支援ソフト等を活用した「意見シート」に、児童が提案理由に沿った自分の意見やその理由を入力する。「意見シート」上で互いの考えを事前に共有できるようにする。

イ 内容

意見シートに記載する内容は以下のとおりである。

(ア) 話し合い

議題、提案理由、決まっていること、児童の意見と理由

(イ) 振り返り

自分や友達が頑張っていたこと、学級のよかったところ、次に生かしたいこと

ウ 必要な機能

意見シートには、共同編集ができる、あるいは児童が個別に作成した画面を共有することができるアプリケーションを活用する。本研究で作成した意見シートは図1～4のとおりである。（自治体によって活用したアプリケーションは異なる。）

話し合い用のページ

第8回学級会		
議 題	5年2組がんばったね会をしよう	
提案理由	5年2組のみんなと4月からがんばってきました。1年間のがんばりをみんなで認め合いながら、楽しめる会をすることで、さらにみんながなかよくなって、これからもがんばろうという気持ちになると思って提案しました。	
決まっていること	3月9日の5時間目に教室で行う。2種類のゲームを行う。	
話し合うこと	ゲームの内容は何にするか。	
名 前	意 見	理 由
1	〇〇〇〇 思い出ビンゴ	ビンゴのわくをうめるためにいろいろな思い出を思い出すことができるから。
2	〇〇〇〇 思い出伝言ゲーム	間違えずに言葉を伝えたり聞いたりするためにチームワークが生まれてさらになかよくなれるから。

図1 「表計算ソフトの活用例」

第8回学級会	
【議 題】	5年2組がんばったね会をしよう
【提案理由】	5年2組のみんなと4月からがんばってきました。1年間のがんばりをみんなで認め合いながら、楽しめる会をすることで、さらにみんながなかよくなって、これからもがんばろうという気持ちになると思って提案しました。
【決まっていること】	3月9日の5時間目に教室で行う。2種類のゲームを行う。
話し合うこと	ゲームの内容は何にするか。
意 見	思い出ビンゴ
理 由	ビンゴのわくをうめるためにいろいろな思い出を思い出すことができるから。

図2 「プレゼンテーションソフトの活用例」

振り返り用のページ

名前	自分ががんばったこと	友達ががんばっていたこと	学級がよかったところ	次に生かしたいこと
1	提案理由の「1年間の振り返り」をみんな合意して話した。	○は、タブレットにた介がいた。	「すごろくのマスに思い出す」のクイズを入れること	友達の意見をまとめること
2	友達と話をした。	○は、タブレットにた介がいた。	「すごろくのマスに思い出す」のクイズを入れること	友達の意見をまとめること

図3 「表計算ソフトの活用例」

<p>【自分ががんばったこと】 提案理由の「1年間の振り返り」をみんな合意して話した。</p>	<p>【友達ががんばっていたこと】 ○○さんは、友達がタブレットに書いていたことを紹介していただいていたと思う。</p>
<p>【学級がよかったところ】 「すごろくのマスに思い出す」のクイズを入れること</p>	<p>【次に生かしたいこと】 次は、友達の意見のよいところをつなぐことで、もっとよい考えになるようにしたいです。</p>

図4 「プレゼンテーションソフトの活用例」

2 発達の段階に応じた意見シートの活用

解説「学級活動(1)の発達の段階に即した指導のめやす」を基に、意見シートの活用場面や活用することのよさ(○)、留意点(◆)を以下に示す。

(1) 事前の活動

学年	児童からの視点	教師からの視点
低学年	<p><u>自分の意見を入力する。</u></p> <p>○自分の意見を入力することで、自分の考えを整理することができる。</p> <p>○事前に、友達の意見を知ることによって、活動への見通しがもてる。</p>	<p>○児童が考えをもてるように支援することができる。</p> <p>◆アンケート集計機能や協働学習支援ソフトを活用して意見を集約する。</p>
中学年	<p><u>自分の意見と理由を入力する。</u></p> <p>○友達の考えが共有されることで、意見の書き方を参考にすることができる。</p> <p>○「比べ合う」段階から話し合うことができるため、重点的に話し合いたいことに時間をかけることができる。</p> <p>○計画委員会が意見の集約や短冊の準備、話し合いのシミュレーションの際に活用できる。</p>	<p>○全児童の意見を即時に閲覧できるので、実態把握や支援がしやすい。</p> <p>○話し合いが混乱しそうな場面を予測し、児童とシミュレーションを行うことができる。</p> <p>◆意見シートを見て、提案理由に沿って自分と友達の意見を比較することを指導する。</p>
高学年	<p><u>自分の意見と理由、友達の意見を受けて考えたことを入力する。</u></p> <p>○事前に、賛成意見や反対意見、質問等を考えることができる。</p> <p>○計画委員会が、意見の集約や短冊の準備、話し合いのシミュレーションの際に活用する。</p>	<p>○全児童の意見を即時に閲覧できるので、実態把握や支援がしやすい。</p> <p>◆意見シートを見て、提案理由に沿って自分と友達の意見のよさを比較することを指導する。</p>

(2) 話し合い活動

学年	児童からの視点		教師からの視点
低学年	話し合い 合意形成	<u>自分の意見を伝える。</u> ○自分の意見を忘れてしまったときに意見シートを見ることによって自分の意見を思い出し、自信をもって発言することができる。	○「出し合う」段階で意見が出ない時に、自分の意見シートを見るように促し、発言のきっかけを与えて、自信をもって発言させることができる。 ◆話し合いに集中できるように、学習者用端末は始めから開かせず、教師の助言の下、使用させる。
中学年		<u>理由を明確にして自分の意見を伝える。</u> ○意見シートを見ることによって、提案理由と自分や友達の意見とのつながりを再確認することができる。	○話し合いが提案理由からそれてしまった際に意見シートを見る時間を設定することで、児童が自分の発言が提案理由に沿っているか確認することができる。 ◆話し合いが停滞した際には、少人数グループになって意見シートを見ながら話し合う時間を設定する。
高学年		<u>多様な意見のよさを生かしながら自分の意見を伝える。</u> ○意見シートを見て自分や友達の意見を再確認することによって、話し合いで意見を比較したり、関連付けたりすることができる。	○話し合いが提案理由からそれてしまった際に意見シートを見る時間を設定することによって、児童が自分や友達の意見を確認し、意見同士を比較したり、関連付けたりすることができる。 ◆話し合いが停滞した際には、少人数グループになって意見シートを見ながら話し合う時間を設定する。

(3) 事後の活動

学年	児童からの視点		教師からの視点
低学年	実践 振り返り	○教師や友達からの称賛を知ることによって、自信をもつことができる。 ○自分のよさや友達のよさに気付くことができる。 ○成果や課題を考えることによって、次の活動につなげることができる。 ○計画委員が話し合いの中で困ったことや工夫したことを入力し、次の計画委員に引き継ぐことができる。(低学年は実態に応じて教師が受け持ち、少しずつ児童がその役割を担うことができるようにしていく。)	○頑張ったことや次に頑張りたいことを振り返らせることで、それらを次の活動につなげさせることができる。 ◆「自分が頑張ったこと」、「友達が頑張っていたこと」、「学級のよかったところ」、「次に生かしたいこと」の4観点の振り返りを次の活動に結び付けさせることによって、更なる成長につなげる。
中学年			
高学年			

IV 検証授業及び考察

1 <検証授業 1：低学年>学級活動(1) 第1学年（実践：令和4年10月4日）

議 題	みんながニコニコになれるドッジボール大会をしよう		
内容のまとめ	学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」		
提 案 理 由	みんながニコニコになれるドッジボール大会をして、さらに笑顔いっぱいのクラスにしたいから。		
※ 第1学年 及び 第2学年 の評価規準	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
	みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。
本時のねらい	みんながニコニコになれるドッジボール大会の内容を考えることができるようにする。		
話し合うこと	何ドッジボールをするか。みんながニコニコになれる工夫について。		

	●児童の活動や様子 ☆学習用端末の活用	◎目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉 ◆伝え、共通理解したことを基に、合意形成を図ろうとする児童の姿 「児童の発言や意見シート及び学級会ノートへの記述」
事前の活動	●議題・提案理由を決め、学級全体で共通理解した。 ●自分の考えを意見シートに記入した。 ☆意見シートで児童の考えとその理由を共有した。 ☆意見シートを読んで、自分と友達の意見を確認した。	◎◆みんながニコニコになれるドッジボール大会の内容を意見シートに書いている。 「ルールが分かりやすいと、みんながニコニコになれます。」 【思考・判断・表現】〈意見シート〉 ◎◆友達の意見を読むことで、ドッジボール大会への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 「○○さんと同じ考えでうれしいです。」 【主体的態度】〈発言・観察〉
話し合い活動	●話し合うこと1「何ドッジボールをするか」について意見を出し合い、互いの意見をよく聞いて合意形成を図った。 ●話し合うこと2「みんながニコニコになれる工夫」について意見を出し合い、互いの意見をよく聞いて合意形成を図った。 ☆意見シートで自分自身の意見と友達の意見を確認した。 ☆自分の学級会ノートに学級会の振り返りを記入し、写真を撮って協働学習支援ソフトで共有した。	◎◆これまでの集会活動の経験を生かして、ドッジボール大会の内容や工夫について考えている。 ◎◆話し合いの進め方に沿って自分の意見を発言したり、友達の意見をよく聞いたりしている。 「王様ドッジボールに賛成です。王様を見付けると楽しくて、ニコニコになれるからです。」 「アメリカンドッジボールから、王様ドッジボールに変えます。王様を見付けるのが楽しいからです。」 「みんなで応援するに賛成です。理由は応援した方もされた方もニコニコになれるからです。」 【思考・判断・表現】〈発言・観察〉
事後の活動	●みんながニコニコになれるドッジボール大会を行い、振り返りを共有した。 ☆自分の学級会ノートに実践後の振り返りを記入し、写真を撮って協働学習支援ソフトで共有することでよさを認め合った。	◎ドッジボール大会のめあてを意識して、友達と仲よく助け合って取り組んでいる。 「みんながニコニコになれるように準備をしたいです。」 【思考・判断・表現】〈発言・観察〉 ◎ドッジボール大会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 「ニコニコになるために、応援するのをがんばりました。」 「○○さんが助けてくれたので、ニコニコになりました。」 「次は、違う遊びでもみんなで見たいです。」 【主体的態度】〈学級会ノート〉

※ 本議題においては、研究主題との関連により【思考・判断・表現】及び【主体的態度】に重点を置き、評価する。

2 <検証授業2：中学年>学級活動(1) 第4学年(実践：令和4年9月6日)

議 題	みんなで力を合わせるミニオリンピック大会をしよう		
内容のまとめ	学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」		
提案理由	チームでやれば、みんなで力を合わせてできるし、学級の仲も深まると思うから。		
※ 第3学年 及び 第4学年 の評価規準	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
	みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。
本時のねらい	みんなで力を合わせてできるミニオリンピック大会の内容を考えることができるようにする。		
話し合うこと	競技を何にするか。力を合わせて楽しめる工夫をどうするか。		

	●児童の活動や様子 ☆学習者用端末の活用	◎目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉 ◆伝え、共通理解したことを基に、合意形成を図ろうとする児童の姿 「児童の発言や意見シートへの記述」
事前の活動	●議題・提案理由を決め、学級全体で共通理解した。 ●個人のめあてと自分の考えを意見シートに記入した。 ☆意見シートで児童の考えとその理由を共有した。 ☆友達の意見を読んで、自分の意見と比較した。	◎◆みんなで力を合わせるミニオリンピック大会の内容を意見シートに書いている。 「○○なら、みんなで力を合わせてできると思う。」 【思考・判断・表現】〈意見シート〉 ◎◆友達の考えや理由を確認することで、ミニオリンピック大会への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 「出された意見を比べると、協力しないとできない伝言ゲームがよいと思う。」 「出された意見を短冊に書いて準備しておこうかな。」 【主体的態度】〈発言・観察〉
話し合い活動	●話し合うこと1「競技を決めよう」について理由を明確にして意見を出し合い、出た意見のよさを生かして合意形成を図った。 ●話し合うこと2「力を合わせて楽しめる工夫を考えよう」について理由を明確にして自分の意見を伝え、友達の意見と比べて合意形成を図った。 ☆意見シートで友達の意見を確認しておくことで、「比べ合う」段階に重点を置いて話し合った。 ☆意見シートで自分と友達の意見を比較した。 ☆意見シートに学級会の振り返りを入力した。	◎◆これまでの集会活動の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、ミニオリンピック大会の内容や工夫について考えている。 ◎◆みんなで力を合わせてできる内容はどれがよいか根拠を明確にしながらか発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。 「私は、お玉リレーがよいと思います。仲間と協力してどうすれば早くできるか方法を考えられるからです。」 「どんじゃんけんぼんがよいと思ったけど、みんなの話を聞いて、お玉リレーならみんなで助け合ってできると思ったから意見を変えます。」 【思考・判断・表現】〈発言・観察〉
事後の活動	●みんなで力を合わせてできる、ミニオリンピック大会を行い、振り返りを共有した。 ☆意見シートに振り返りを入力し、共有することでよさを認め合った。	◎ミニオリンピック大会のめあてを意識して、友達と協力して取り組んでいる。 「みんなと力を合わせて準備や片付けをしたいと思います。」 【思考・判断・表現】〈発言・観察〉 ◎ミニオリンピック大会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 「チームで力を合わせて準備や競技ができました。」 「○○さんが力を合わせて競技や応援をしていました。」 「競技の時間配分が次への課題です。」 【主体的態度】〈意見シート〉

※ 本議題においては、研究主題との関連により【思考・判断・表現】及び【主体的態度】に重点を置き、評価する。

3 <検証授業3：高学年>学級活動(1) 第6学年（実践：令和4年11月1日）

議題	だれとでも協力し合える集会をしよう		
内容のまとめ	学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」		
提案理由	「だれとでも協力し合えるクラス」になるために、集会活動をすることで、これまでに以上にみんなが仲良くなれると思ったから。		
※ 第5学年 及び 第6学年 の評価規準	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。
本時のねらい	だれとでも協力し合えるクラスを達成するための、集会活動の内容を考えることができる。		
話し合うこと	集会で遊ぶ遊びを何にするか。協力し合える工夫・ルールについて。		

	●児童の活動や様子 ☆学習用端末の活用	◎目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉 ◆伝え、共通理解したことを基に、合意形成を図ろうとする児童の姿 「児童の発言や意見シートへの記述」
事前の活動	●議題・提案理由を決め、学級全体で共通理解した。 ●個人のめあてと自分の考えを意見シートに記入した。 ☆意見シートで児童の考えとその理由、決まった遊びの工夫を共有した。 ☆友達の意見を読んで、自分の意見を再考した。	◎◆だれとでも協力し合える集会の内容を意見シートに書いている。 「○○なら、だれとでも協力し合えると思います。」 【思考・判断・表現】〈意見シート〉 ◎◆友達の考えや理由を比較し、自分の意見を再考することで、集会への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 「自分の理由がいいと思うが、同じ意見の○○さんや□□さんの理由も提案理由に沿っていて納得できます。」 「○○○という意見が多いから、○○○という遊びに決まりそうです。だとすると、こんな工夫が出てきそうです。」 【主体的態度】〈発言・観察〉
話し合い活動	●話し合うこと1「遊びを決めよう」について意見を出し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図った。 ●話し合うこと2「協力し合えるための工夫・ルールを考えよう」について意見を出し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図った。 ☆意見シートで友達の意見を確認しておくことで、「比べ合う」と「まとめる」段階に重点を置いて話し合った。 ☆意見シートに振り返りを入力した。	◎◆これまでの集会活動の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、だれとでも協力し合える集会の内容や工夫について考えている。 ◎◆だれとでも協力し合える集会の内容はどれがよいか、これまでの活動や経験を踏まえて、根拠を明確にしながら発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。 「私は、風船バレーを全員でつないで返すルールがいいと思います。提案理由のとおり、誰とでも協力できるからです。」 「私は、3人でつなぐというルールがいいと思います。苦手な人も簡単にできるからです。」 「意見のよさを生かして、3人でつなぐルールにして、1試合の中で全員が1回はつなぐルールにすればいいと思います。」 【思考・判断・表現】〈発言・観察〉
事後の活動	●だれとでも協力し合える集会を行い、振り返りを共有した。 ☆意見シートに振り返りを入力し、共有することでよさを認め合った。	◎だれとでも協力し合える集会のめあてを意識して、友達と協力して取り組んでいる。 「だれとでも協力し合って風船バレーをしたいです。」 【思考・判断・表現】〈発言・観察〉 ◎だれとでも協力し合える集会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 「自分の考えと友達の考えを比べて、みんなの思いを生かして話し合いをまとめることができました。」 「集会活動以外でも協力し合うことが次への課題です。」 【主体的態度】〈意見シート〉

※ 本議題においては、研究主題との関連により【思考・判断・表現】及び【主体的態度】に重点を置き、評価する。

4 検証授業の考察

学級会において合意形成を図るために、学習者用端末を効果的に活用し、児童の意見やその理由、振り返りを互いに共通理解できるようにした。

(1) 成果

ア 事前に学習者用端末を用いて意見を共有することで、自信をもって発言することにつながった。

イ 発言することに課題がある児童にとっては、学習者用端末に入力する方法は意見を伝えやすく、そうした児童の意見も共有することができ、より多くの児童の考えを基に合意形成を図ることができた。

ウ 意見シートで友達の意見や理由を確認することで、低・中学年では、どのように理由を言えばよいか理解することができ、理由を付けて意見を言える児童が増えた。高学年では、多様な意見のよさを生かして自分自身の考えを再考することができる児童が増えた。

(2) 課題

ア 意見シートの作成が児童の負担にならないようにするために、アンケート集計機能で意見を集約して一覧にまとめたり、協働学習支援ソフトを使用したりすることで、意見シートを効率よく作成する。低学年は、手書き入力をしたり、選択形式のアンケート集計機能を使用したりすることで、作成しやすくする。

イ 話し合い中の集中力が低下しないようにするために、意見シートを開いたまま学習者用端末を裏返し、話し合いの区切りや話し合いが議題からそれたり滞ったりしたときなど、必要な時に見るようにする。

意見シートの表示の仕方、授業中の使い方など、さらに効果的な活用の仕方について検討していく。

V 調査研究の結果と分析

調査方法・・・Webアンケートによる

調査実施時期・・・9月上旬、11月上旬

調査対象・・・教育研究員の所属する都内公立小学校10校の部員の担当学級児童

(第1学年～第6学年 9月286人、11月270人)

1 Webアンケート項目

質問1 学級会で、自分の考えを一番伝えやすい方法を選んでください。

選択肢1 全体の前で、自分の考えを発言する。

選択肢2 小グループの中で、自分の考えを発言する。

選択肢3 タブレットで、みんなが見られる画面に自分の意見を入力する。

質問2 質問1で「全体の前で～」、「小グループの中で～」、「タブレットで～」を選んだ理由を教えてください。(記述式)

質問3 質問1の中で、伝えやすい方法を選んでください。(いくつ選んでもよいです。)

「全体」、「小グループ」、「タブレット」

質問4 学級会で、友達の考えを聞いて、提案理由に合っているか考えている。

「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまらない」、「当てはまらない」

質問5 学級会で話し合いに進んで参加している。

「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまらない」、「当てはまらない」

質問6 学級会で、みんなで話し合うことのよさを感じたことがある。

「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまらない」、「当てはまらない」

質問7 質問6で、「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」を選んだ人は、理由を教えてください。(いくつ選んでもよいです。)

- 選択肢1 自分の考えを伝えることができたから
- 選択肢2 自分の考えに決まったから
- 選択肢3 友達が自分の考えを認めてくれたから
- 選択肢4 友達の考えを知ることができたから
- 選択肢5 みんなで決めることができたから
- 選択肢6 よりよい内容に決めることができたから
- 選択肢7 その他

2 質問1で「タブレットが一番伝えやすい方法」と回答した児童の記述分析

質問1で一番伝えやすい方法として「タブレット」を選んだ児童が、質問2でその理由について記述した内容に対して、テキストマイニングを行い単語の出現頻度を調べた。意見を「見られる」、「伝える」などの単語が多く検出された。(図5)

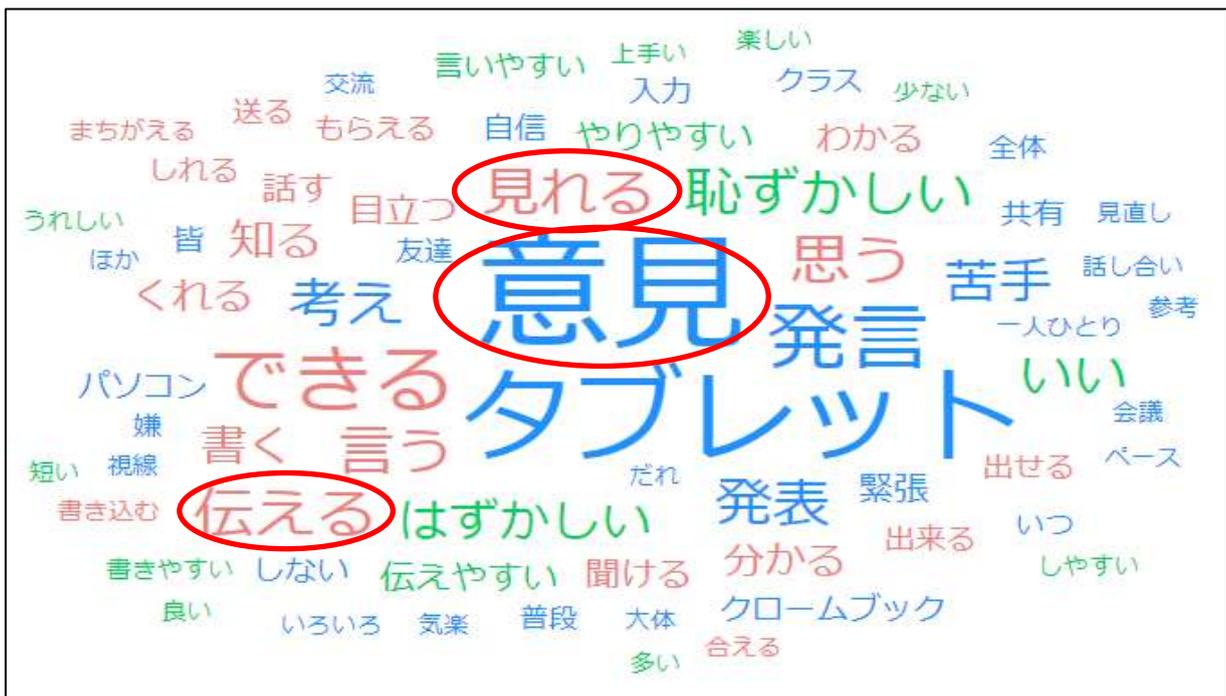


図5 「タブレットが一番伝えやすい方法の理由をテキストマイニングした結果」

さらに、「タブレットなら全員の意見が見られてとても参考になる。」、「タブレットを使えばみんなの意見を取り入れることができて更によりよい意見を出せるから」、「タブレットを使うと、友達のを考えを簡単に見ることができるし、考えを伝えるのが苦手な人でも、伝えることができるから」という意見が11月の調査では多く見られるようになった。

このことから、学習者用端末を活用することで、互いに意見を伝え、考えを共通理解するための有効な手段になっていたことが分かった。

3 特に増加した項目に関する結果

図6のように、アンケート項目の中で肯定的な回答をした児童が特に増加した項目は、質問4「学級会で、友達のを考えを聞いて、提案理由に合っているか考えている。」と質問5「学級会で話し合いに進んで参加している。」であった。質問4では、肯定的な回答をした児童が全体で、5.1ポイント増加し、質問5では7.3ポイント増加した。

また、図7のように、質問3「学級会で、自分の考えを伝えやすい方法を選んでください。（複数回答可）」では、「タブレット」と回答した児童は、2.8ポイント減少しているのに対し「小グループとタブレット」、「全体と小グループとタブレット」と回答した児童は、それぞれ4.9ポイント、5.8ポイント増加した。

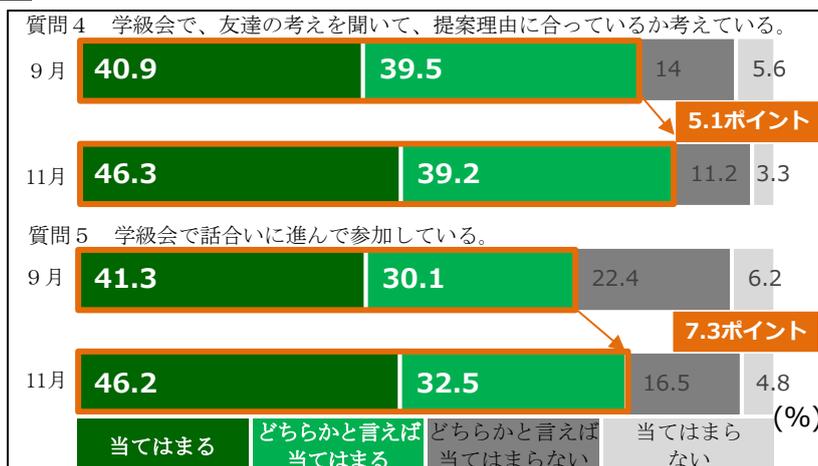


図6 「肯定的に回答をした児童が特に増えた項目」

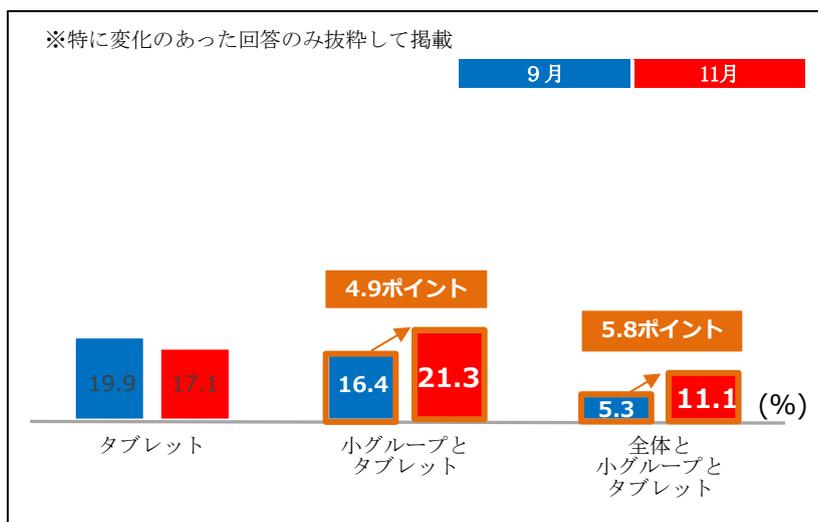


図7 「学級会で自分の考えを伝えやすい方法」

さらに、「小グループとタブレット」、「全体と小グループとタブレット」と回答した児童は、質問4「学級会で、友達の考えを聞いて、提案理由に合っているか考えている。」と質問5「学級会で話し合いに進んで参加している。」で肯定的な回答をした人数が「タブレット」のみと回答した児童よりも増加していた。(図8、図9)

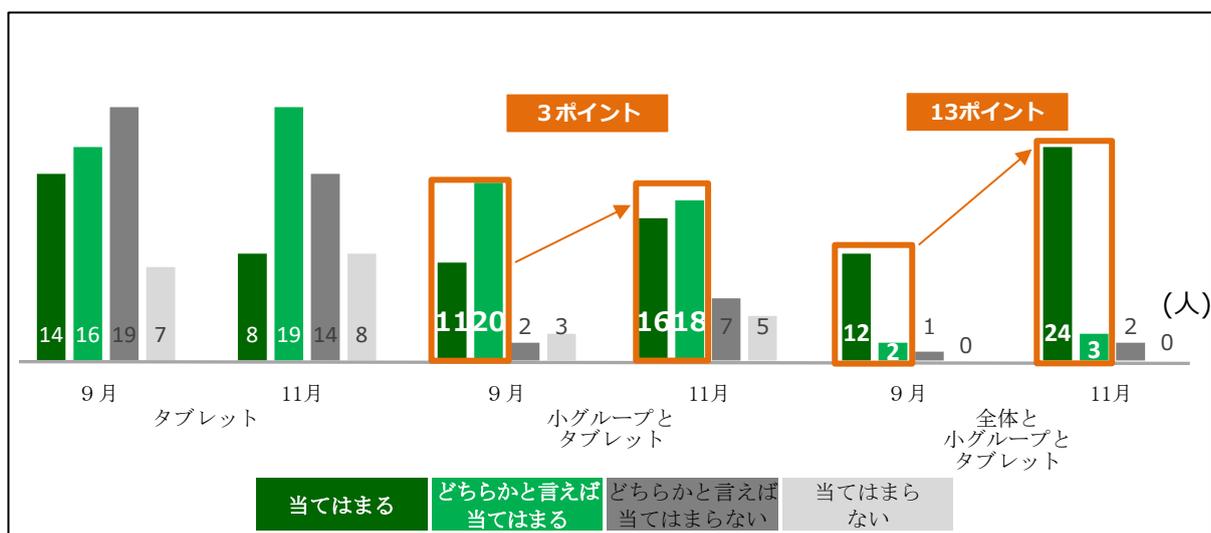


図8 「学級会で自分の考えを伝えやすい方法と質問4(友達の考えを提案理由に合っているか考えること)との関係」

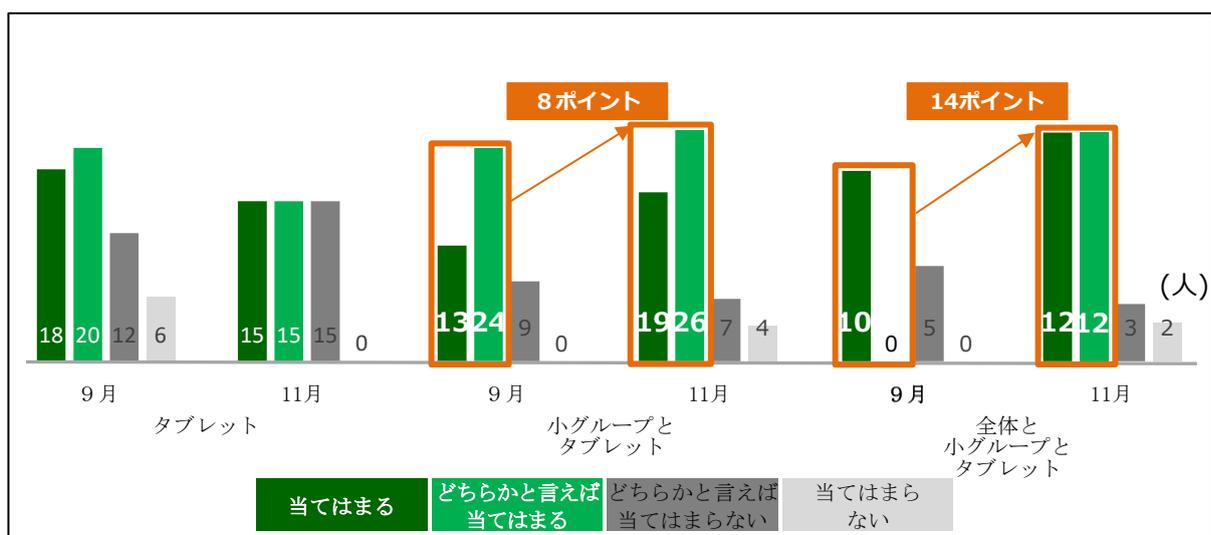


図9 「学級会で自分の考えを伝えやすい方法と質問5(学級会で話し合いに進んで参加すること)との関係」

4 特に増加した項目に関する分析

学習者用端末を活用し、話し合い活動の事前に自分の考えや理由を意見シートに入力することが、友達の考えを共有する機会を増やすこととなり、質問4「提案理由に合っているか考える」、質問5「学級会で話し合いに進んで参加する」ための手だてとして有効なことが分かった。

意見シートを活用したことで、学級会で自分の考えを伝えやすい方法を「小グループとタブレット」、「全体と小グループとタブレット」と回答した児童が全体的に多くなり、多様な方法により対話することが活性化されたと考えられる。また、それらを回答した児童に質問4と質問5で肯定的な回答した児童が多いことから、意見シートによって、小グループや全体での発言意欲を高め、課題の共通理解を図り、合意形成に向かって考えていることが分かった。

5 育てたい児童の姿に関する結果

質問1「学級会で、自分の考えを伝えやすい方法の一つを選んでください」で「タブレットで、みんなが見られる画面に自分の意見を入力する」と回答した児童について、質問7「学級会で、みんなで話し合うことのよさを感じたときの理由」を9月と11月で比較した。全体では、選択肢2「自分の考えに決ま

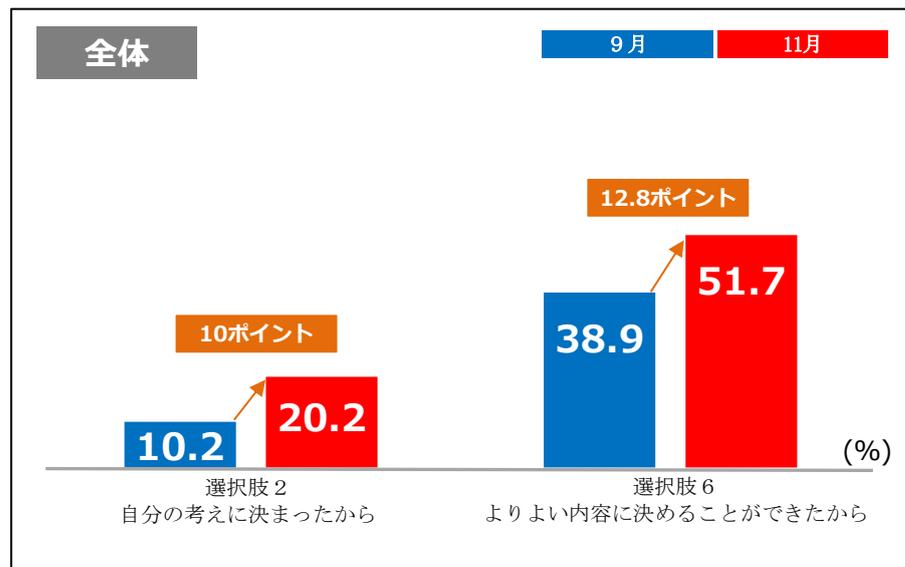


図10「タブレットが自分の考えを伝えやすいと回答した児童の学級会でみんなで話し合うことのよさを感じる理由(全体)」

ったから」の項目で10ポイントの増加が見られた。選択肢6「よりよい内容に決めることができたから」の項目では12.8ポイント増加した。(図10)

また、各学年で比較すると選択肢2「自分の考えに決まったから」の項目は低学年では18.5ポイント、高学年では、10.4ポイント増加した。選択肢6「よりよい内容に決めることができたから」では、低学年で16.5ポイント、中学年では3.1ポイント、高学年では16.7ポイント増加した。(図11)

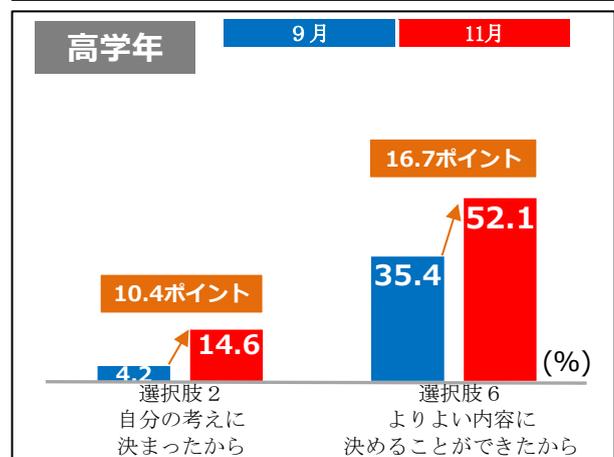
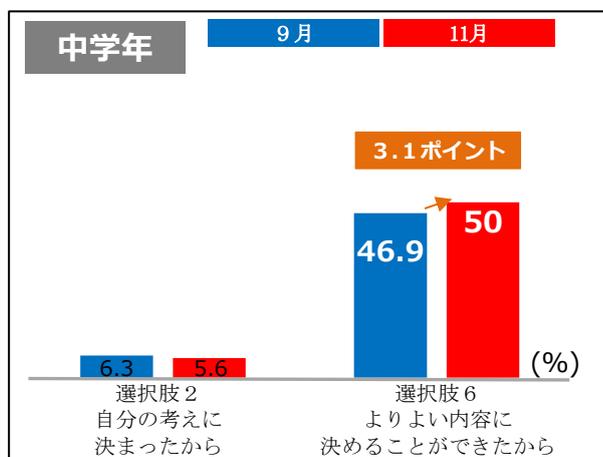
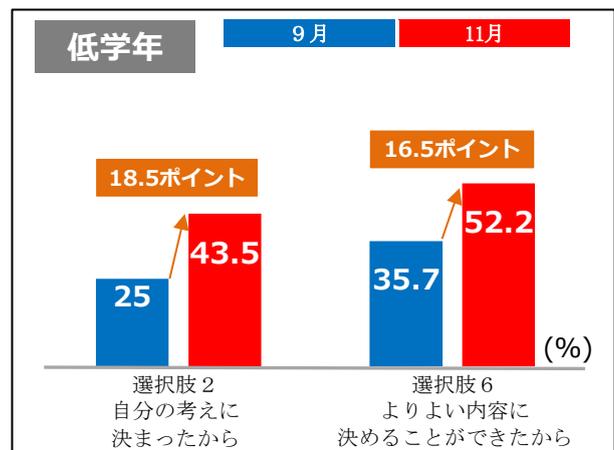


図11「タブレットが自分の考えを伝えやすいと回答した児童の学級会でみんなで話し合うことのよさを感じる理由(低・中・高学年別)」

6 育てたい児童の姿に関する分析

質問1で「タブレット」と答えた児童の質問2の自由記述には、9月は「タブレットに自分の考えを書けば、みんなの前で話すことが苦手な人でも書いて、みんなに共有できる」といった内容が目立ったが、11月では「タブレットに意見を入力すれば、みんなの意見を取り入れることができ、更によりよい意見を出せるから」、「提案理由や友達の考えを参考にして、自分の考えをもう一回書き直せるし、自分の考えをみんなに何回も見せられるから」など、自分の考えに更に友達の意見を加えることで、よりよい内容に決めようとする事について書かれていた。

つまり、学習者用端末を使用して事前に意見を入力することで、全体の前で発言することに課題のある児童が、自分の意見を全体に伝えられるようになるだけでなく、話し合いの目的を基に、友達の考えを取り入れて自分の意見をよりよいものにしようとし、合意形成を図ろうとしていることが分かった。この結果、「よりよい内容に決めることができたから」という回答が増加したと考えられる。

7 調査研究のまとめ

調査研究を通して、議題や提案理由に対する自分の考えを伝え、話し合いの目的を共通理解する際に、学習者用端末を効果的に活用することで、児童は安心して自分の意見を伝えたり、友達の意見を取り入れて自分の意見をよりよいものにしようとしたりするようになり、学級会に進んで取り組み、合意形成を図ろうとする意識が高まることが分かった。

特に、学習者用端末を活用して事前に意見を入力したり、意見を共通理解したりすることで、発達の段階によって次のような効果が見られた。低学年は自分の意見を安心して伝えることで話し合いに進んで参加し、自分の意見を積極的に伝えられるようになることが分かった。中学年は、自分の意見だけでなく、提案理由を基に、友達の意見を取り入れてみんなで話し合うことで合意形成を図ろうとすることができるようになることが分かった。高学年は、出された意見の中から提案理由を基に、互いの意見を生かして、よりよい内容に決定することができるようになることが分かった。

VI 研究のまとめ

検証授業及び調査結果から、本研究の成果と課題について以下のとおりまとめた。

1 成果

- (1) 意見シートを活用して、一人一人の考えを可視化したことで、児童は考えを共有する機会が増え、「提案理由に合っているか考える」、「学級会で話し合いに進んで参加する」ようになり、互いに意見を伝え、話し合いの目的を共通理解することができた。
- (2) 児童は友達の考えを取り入れて自分の意見をよりよいものにしようとし、合意形成を図ろうとする意識を高めることができた。このことから、学級会での話し合いの経験を生かして、対話しながら学習を進めることのよさを実感することができた。

2 課題

- (1) 意見シートの表示の仕方、授業中の使い方など、更に効果的な活用の仕方について検討していく。
- (2) 学習者用端末での考えの共有も「対話的な学び」として捉え、学級会における更なる活用方法を探究していく。

令和4年度 教育研究員名簿

小学校・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
中 央 区 立 久 松 小 学 校	主 任 教 諭	田 城 有 加 里
板 橋 区 立 前 野 小 学 校	主 任 教 諭	春 野 真 也
江 戸 川 区 立 新 田 小 学 校	主 任 教 諭	佐 藤 良
八 王 子 市 立 浅 川 小 学 校	主 任 教 諭	佐 生 瑞 穂
三 鷹 市 立 第 五 小 学 校	主 任 教 諭	千 田 薫
青 梅 市 立 河 辺 小 学 校	主 任 教 諭	秋 嶺 創 大
町 田 市 立 七 国 山 小 学 校	主 任 教 諭	◎ 川 村 容 平
小 平 市 立 小 平 第 三 小 学 校	主 任 教 諭	伊 藤 仁 美
福 生 市 立 福 生 第 六 小 学 校	主 任 教 諭	関 根 夕 紀
東 久 留 米 市 立 第 六 小 学 校	主 任 教 諭	棚 橋 正 太

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
指導主事 関 聡 司

令和4年度
教育研究員研究報告書
小学校・特別活動

令和5年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849